

ひかり

2024年12月号



St. Stephen

日本聖公会 三光教会

第729号

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nsskk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

「万物は言によって成った。言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に成ったものは、命であった。この命は人の光であった。」
(ヨハネによる福音書1-4)

イエスさまの誕生を

お祝いするクリスマス

司祭シモン・ペテロ上田憲明

今でこそ、日本でも個人個人の誕生日をお祝いののが当たり前になってきましたが、以前の日本では数え年で年齢を考えていたので、お正月になると一斉に一年をとるようになっていて、個人の誕生日を祝う事はほとんどされていなかったという歴史を知る人も少なくなってきたように思われます。お誕生日をお祝いのを、特に子供の時に、親や周りの人からお祝いされ、「幾つになったの?」と成長を共に喜ぶことがメインになっているので、大人になって更にある程度年齢を重ねてくると、「もうお誕生日は、おめでとう、と言われても、喜べない」と思ってしまう人が出てきてしまい、とても残念な気持ちになる気がします。お誕生日をお祝いすることは、そもそも、年齢を重ねていることを祝う前に、その人が誕生し、今、共に生きていて、

この時代を一緒に過ごす仲間であることをまず祝っているのではないのでしょうか? 「あなたが今、ここにいてくれてよかった」という意味でお祝いしているという根本のところを見失うと、誕生日をお祝いしてもらっても、あまり喜べないのかもしれない。

クリスマスにイエスさまの誕生をお祝いしていますが、実はイエスさまの誕生日そのものはわかっていません。なので、教会の歴史の中で、12月25日にクリスマスを祝いするようになったのは復活日や聖霊降臨日などと比べてだいぶん後になってからのことだと言われています。地球の北半球において、昼が最も短く夜の暗闇が一年で最も長くなる冬至の頃にお祭りをする習慣がキリスト教に取り入れられ、イエスさまがこの世を照らす光であるという意味で、イエスさまが生まれてきてくれたよかったとお祝いする日が、冬至に近い12月25日に定められたのでしよう。東方正教会では、この日をお祝いする習慣はなく、冬至を2週間ほど過ぎて夜が段々短くなり始めるのが実感できる、1月6日をクリスマスのような意味でお祝いしていたことから、西

方の教会でも12月25日にイエスさまが人として誕生されたこと、1月6日を顕現日として、イエスさまの神性が光のように現れて始める日と顕現日をお祝いするようになっていったのでは、ないでしょうか?

さらに、イエスさまの誕生にまつわるエピソードをよく考えてみると、命の危険がいろいろとあつたことがわかります。まず、マリヤの婚約者だったヨセフは、マリヤの妊娠を聞いて、密かに離縁しようとしていたことがマタイによる福音書に出てきます。もしヨセフが離縁していたとしたら、マリヤは、父親のわからない子を産んだとして、とても普通には生きていけないことになっていたことがわかります。さらに、マタイ福音書では、ヘロデ大王がメシヤの誕生の噂を聞いて、ベツレヘムで生まれた赤ちゃんを殺して回ったために、マリヤとヨセフはエジプトへ逃げたことが語られています。またルカによる福音書では、妊娠中にマリヤは旅をしなければならず、普通の人が泊まれるところではない、たぶん家畜小屋と思われるところで出産をしなければならず、ここでもイエスさまの命の危

陰があつたことがわかります。クリスマスには、それらの危険を乗り越えて、イエスさまが無事に生まれてこられたこともよかったです。お祝いしている、と思います。

12月・2月の予定

◆12月	21日(土)	使徒聖トマス日
	22日(日)	冬期聖職按手節
	22日(日)	降臨節第4主日
	24日(火)	降臨日前夕(クリスマス・イヴ)
	25日(水)	降臨日
	26日(木)	最初の殉教者聖ステパノ日
	27日(金)	福音記者使徒聖ヨハネ日
	28日(土)	聖なる幼子の日
	29日(日)	降臨後第1主日
◆2025年1月	1日(水)	主イエス命名の日
	5日(日)	降臨後第2主日
	6日(月)	顕現日
	12日(日)	1月逝去者記念礼拝
	12日(日)	顕現後第1主日・主イエス洗礼の日
	13日(土)	主教ヒラリ
	17日(金)	修院長アントニオ
	19日(日)	顕現後第2主日
	20日(月)	殉教者主教フアビアン
	21日(火)	殉教者おとめアグネス
	22日(水)	殉教者執事ビンセント
	25日(土)	使徒聖パウロ回心日
	26日(日)	顕現後第3主日
	27日(月)	主教教会博士ヨハネ・クリンストム
	28日(火)	主教教会博士トマス・アクィナス

◆2月	2日(日)	被献日
	3日(月)	ヨーロッパの殉教者
	2月(月)	2月逝去者記念礼拝
	5日(水)	日本の殉教者
	9日(日)	顕現後第5主日
	11日(火)	日本聖公会組織成立記念日
	16日(日)	顕現後第6主日
	23日(日)	顕現後第7主日
	24日(月)	使徒聖マッテヤ日

クリスマス・新年

礼拝案内

クリスマスイヴ礼拝(唱詠晩祷)

12月24日(火) 19時

第I聖餐式 12月24日(火) 22時

第II聖餐式 12月25日(水) 7時半

第III聖餐式 12月25日(水) 10時半

主イエス命名の日(新年礼拝)

第I聖餐式 1月1日(水) 7時半

第II聖餐式 1月1日(水) 10時半



聖堂のピアノについて

黒川 正三

9月20日(金)、聖堂にグラランドピアノが入りました。このピアノは、聖公会司祭の息子として生まれ教会と音楽をこよなく愛された三光教会信徒、故天野博徳氏がご自宅に置かれていらしたもので、先生の想いのこもった楽器です。私たちのコンサートによくお出かけくださりいつも暖かく接してくださった先生が晩年病に臥せていらしたとき、私たちはお宅へ伺い先生のためにこのピアノとチェロで演奏いたしました。ご家族は先生のご様子から、既に意識のない先生が音楽を聴いて喜ばれているとおっしゃってくださいました。数日ののち、先生は神さまの元へ旅立たれました。

先生の令嬢の三光教会信徒中村直子姉が先生のととても大切にされていた三光教会にピアノをご寄贈くださってから長い年月が経ちました。会館に置かれたピアノは聖歌隊の練習や婦人会などの集まりで聖歌が歌われるときなどに使

われましたが、次第に会館の隅にひっそりと置かれたままになりました。昨年、コロナ以来途切れていたオープンチャーチが再開し、聖堂にあふれるほどの方々が私たちのチェロとオルガンのミニコンサートを聴きに来てくださいました。今年はぜひピアノでと思ったのがきっかけでピアノの有効利用を提案した教会委員会が全員一致の賛同を得、聖堂への移転が決まりました。直子さんにお伝えすると「父のグラランドピアノの復活」と心から喜んでくださいました。11月23日(土)、オープンチャーチが開催され、ガレージセールと聖堂でのミニコンサートが行なわれました。聖堂後方に置かれていたグラランドピアノは多くの信徒の方々の協力で大切に聖堂の前まで運ばれて晴れのコンサートの日を迎えました。今年も多くの方々が聖堂を訪れ、コンサートを楽しんでくださいました。それは復活したピアノの音が聖堂に響いた感動のひとつでした。きつと天野先生も聴いていてくださったに違いありません。今後もコンサートや行事のほか、香蘭の学年礼拝でもすばらしい音色を聴かせてくれる

でしょう。天野先生、中村直子さんに心から感謝し大切にに使わせていただきたいと思います。

聖地のこどもを支える会

理事長 井上弘子さんのお話

井上さんを初めて知ったのは、今年8月に聖オルバン教会で行われた「『平和を願う』パイプオルガンの響き」の会場であった。エルサレムから来日したオルガニストの通訳、またコンサート全体の司会もされていた。驚いたのは次の日の朝日新聞夕刊一面に大きな記事で、イスラエルとパレスチナの若者が対話する「平和の架け橋」プロジェクトの紹介があり、その写真の中に井上さんの姿があったことである。すぐに「聖地のこどもを支える会」に連絡を取り、理事長である井上さんにお会いしてお話をうかがった。

井上さんはパリやエルサレムで聖書字を履修後、1987年から聖地ガイドを始めた。そこで土産物を片言の日本語で売りにくる学校に行っていない裸足の子供たちに出会い、1990年有志の献

金から「パレスチナ子供英基金」を、2000年に、より中立の立場を堅持し、平和をつくる若い人材を育てるため、「聖地のこどもを支える会」と名称を変え、会は2003年36法人として認証され、2015年に認定36法人となった。

2005年から「平和の架け橋プロジェクト」を始め、毎年8月にイスラエル、パレスチナの青年を日本に招いて、日本の青年を交えた共同生活をしながらワークショップを実施。毎年3月には日本の青年がイスラエル、パレスチナを訪問して、難民キャンプやホロコースト記念館、現地の施設を見学する「スタディ・ツアー」を行なっている。

イスラエル、パレスチナの青年は、このプロジェクトで初めて敵対する相手に出会った、という若者もいて、最初は互いに緊張しているが、中立的な立場の日本人がいると、だんだん会話が生まれてくる。同じところに宿泊し、一緒に料理を作り、食べ、掃除、洗濯をし、風呂に入り、という中から少しずつ話ができるようになっていくという。パレスチナの青年はホロコーストを知らず、イスラエ

ルの青年はパレスチナの置かれて
いる苦しい現実を理解していない
しかし次第に相手の話を受け止め
ることができるようになる。相手
を友達として認め、敵も味方もな
く、人間は人間、と考え始めて、
ようやく政治の話ができるように
なる。そして、それぞれが互いに
苦しんでいる人間だとわかる中で
具体的に何かをする方向で絆がで
きてくるという。（時には厳しい
衝突もあるが）。3ヶ国の青年た
ちは、原爆被災地では戦争の愚か
さと平和の大切さを学び、201
1年から5年間の東日本大震災被
災地でのボランティア活動では、
苦しむ人々に寄り添う喜びを学ん
だ。

井上さんは言う。「私たちに
できることは小さな種を蒔くこと
です。共同生活の中で、相手の立
場に立ち互いを理解しよう、と伝
え続けてきました。世界の情勢は
難しいことだらけで、今は長いト
ンネルの向こうに、小さな光が見
えるだけとしか言えないかもしれ
ません。でも、これからも神様に
聞く、そして自分の出来ることを
一つ一つやっていく、それが私た
ちの希望につながると信じていま
す。」（記・安次嶺佳子）

〈2025年度〉 教会委員選挙 開票報告(得票順)

- ・ 大川由美子
- ・ 橋本周二郎
- ・ 大久保郁子
- ・ 黒川正三
- ・ 牟田 実
- ・ 青野悦人
- ・ 石川恭温
- ・ 保坂 誠
- 次点
- ・ 関塚晴美
- ・ 藤田葉二

※なお、これに加えて2025年
度の教会委員にて推薦者3名を
決定する予定です。



立教大学150周年記念ビデオ

「道のただなか」

このビデオは、4話構成で各話が
15分のショートムービーとなってい
ます。

大学の歴史と未来への展望を描い
た特別映像になっていて、「道のただ
なか」と言うタイトルには、立教と
日本聖公会が歩んできた歴史の道
程、聖公会の「中道」の意義と、現在
進行形で進化し続ける姿を象徴す
る意味が込められているようです。

ビデオはウイリアム主教が日本に
上陸してから150年にわたる日本聖
公会の歴史をドラマ仕立てで描かれ
ています。

学生や卒業生、教職員、日本聖
公会の牧師の声を交え、未来に向け
て持続可能な社会を気づくためのビ
ジョンを伝える感動的な内容となっ
ています。1話15分なので気軽に
観ることができます。Youtube「道の
ただなか」と検索してみてください。

（記・牟田 実）

今年のクラシツ



マーマレード待機中
（故大辻直樹さんの記念樹）



教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ
礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。

- 礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
- わからない点は隣の席の者か案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■ 主日礼拝

午前 7:30 聖餐式
午前 10:00 ステパノ会
(日曜学校) 礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝

■ 平日礼拝

毎朝 6:30 から
月、水、金は朝の礼拝、
火、木、土は聖餐式

日本聖公会 三光教会 教会報「ひかり」 2024年12月号(第729号)
発行者: 牧師 上田 憲明 編集・印刷: 三光教会広報委員会